

南房総広域水道企業団中長期経営プラン 2017（平成 29 年度～令和 8 年度）
令和 2 年度施策評価報告書

1 基本理念と目標

「南房総の未来をつなぐ安全・確実で信頼される広域水道」という基本理念を実現するため、3つの計画目標を掲げ、具体的な施策を行う。

（1）水道水の安全の確保【安全】

適切な浄水処理の徹底及び水質管理体制の強化により、安全な水道用水を供給し続けることを目指す。

（2）確実な給水の確保【強靱】

自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても迅速に復旧できるしなやかな水道を目指す。

（3）供給体制の持続性の確保【持続】

水道を担う人材の確保と経営基盤の強化を図り、健全かつ持続可能な水道を目指す。

2 評価対象年度 令和 2 年度

3 取組結果

（1）基本目標 水道水の安全の確保【安全】

評価	件数	割合
a：達成している	7 件	77.8%
b：概ね達成している	1 件	11.1%
c：達成していないが進展している	1 件	11.1%
d：進展していない	0 件	0.0%
計	9 件	100.0%

注：件数は、以下に記載の取組毎に数えている。

1) 水源水質・水質事故への対応力の向上

① 水源水質監視 【評価：a 達成している】

長柄ダムの水質調査を毎月 1 回実施した。

② 水質事故発生に備えた体制整備 【評価：a 達成している】

利根川・荒川水系水道事業者連絡協議会等による情報連絡体制により、水質事故情報を速やかに入手することができた。

2) 適切な浄水処理の実施

① 浄水処理の徹底 【評価：a 達成している】

粉末活性炭や凝集剤の注入率を適宜調整し、トリハロメタン等を目標値内に管理した。

② 新たな浄水処理方法の調査・検討 【評価：c 達成していないが進展している】

高塩基度 P A C の室内試験を行ったものの、効果を評価するまでには至っていない。

③ 送水水質管理の徹底 [評価：a 達成している]

水質検査を定期的実施し、濁度や色度が目標値を超過することはなかった。

3) 水質管理体制の充実

① 水質検査体制の充実 [評価：b 概ね達成している]

水質検査機器の機能維持を図り、水質基準項目自己検査数 46 項目以上を維持したものの、水道 GLP 取得に向けた作業が進まなかった。

② 水安全計画の着実な運用 [評価：a 達成している]

計画の実施状況の検証や水源リスク情報の見直しを行った。

③ 受水団体との意見交換 [評価：a 達成している]

夷隅・安房地区水道水質担当者連絡協議会を開催し、情報交換を行った。

④ 水質に関する情報提供 [評価：a 達成している]

水質検査の結果を、毎月公表することができた。

(2) 基本目標 確実な給水の確保【強靱】

評価	件数	割合
a：達成している	4 件	40.0%
b：概ね達成している	3 件	30.0%
c：達成していないが進展している	0 件	0%
d：進展していない	3 件	30.0%
計	10 件	100.0%

注：件数は、以下に記載の取組毎に数えている。

1) 施設・管路の維持管理

① 施設・管路の維持管理 [評価：b 概ね達成している]

点検整備計画による点検整備を実施したが、予定していた工事 2 件が入札不調により実施できなかったため、来年度発注することとした。【工務課】評価：b

点検整備計画による点検整備を予定どおり実施することができた。【浄水課】評価：a

② 漏水防止対策 [評価：a 達成している]

電気防食装置の点検を実施し、漏水を防止することができた。

次年度は、電気防食装置の点検実施箇所を拡大し、管路の電食リスクを把握する。

③ 設備・管路情報等の管理 [評価：a 達成している]

設備台帳や工事台帳などの情報を適宜追加や修正を行い、情報管理を行った。

管路情報を整理し、水道施設台帳の作成を進めた。

2) 適切な更新の実施・災害対策事業の実施・危機管理体制の強化

① 管路の計画的な更新の検討 [評価：d 進展していない]

将来的な事業統合を見据え、更新管ルートの詳細選定業務委託の執行を中止した。

また、次年度以降の管路更新事業の取組は休止することとした。

② 浄水施設等の更新 〔評価：b 概ね達成している〕

当初の計画どおり更新事業を実施したが、経年化設備率が目標値を下回っている。

③ バックアップ機能の検討 〔評価：d 進展していない〕

浄水池の容量の適正化を図るため、浄水池の新設に係る詳細設計業務を予定していたが、入札不調により実施できなかったため、次年度発注することとした。

新たな調整池については、統合後の新たな用水供給事業体において、統合後の新たな末端給水事業体との間で協議・調整した上で検討を進める。

④ 房総導水路施設緊急改築事業 〔評価：a 達成している〕

本事業は、房総導水路施設整備計画等検討連絡会を通じて、適切な事業の進行管理を行い、令和2年度末に計画どおり完了したため、令和2年度をもって「事業の終了」となった。

⑤ 事故時対応及び復旧作業の迅速化

⑥ 災害・事故時における連携強化 〔評価：b 概ね達成している〕

他団体及び民間業者との協定を継続し、迅速に応急復旧が行える体制を維持することができた。

⑦ マニュアルの充実と訓練の実施 〔評価：d 進展していない〕

応急給水訓練は実施したが、業務継続計画の策定作業が進んでいない。

⑧ 渇水時の体制強化 〔評価：a 達成している〕

冬季に南房総市のダムで工事による水位低下により、給水量を増やす必要があったが、関係団体と調整を行い、円滑な水運用を行った。

渇水対応マニュアルの再点検を行った。

(3) 基本目標 供給体制の持続性の確保【持続】

評価	件数	割合
a：達成している	4件	36.4%
b：概ね達成している	5件	45.4%
c：達成していないが進展している	1件	9.1%
d：進展していない	1件	9.1%
計	11件	100.0%

注：件数は、以下に記載の取組毎に数えている。

1) 経営の健全化及び効率化

① アセットマネジメントの向上 〔評価：d 進展していない〕

資産管理の精度向上のための課題等の整理ができなかったが、将来的な事業統合を考慮すると、長期的なアセットマネジメント計画の策定は困難であることから、次年度は中長期経営プランの中間改定を行い、その中で令和8年度までの後期5年間の施設更新・維持管理計画及び収支計画の策定を行うよう取組内容を変更した。

② 経営健全化の取組 [評価：a 達成している]

予算要求、予算査定及び予算執行を通じ、コストの抑制に努めた結果、目標を達成することができた。

③ 資金管理・調達に関する取組 [評価：b 概ね達成している]

企業債残高が目標を上回ったが、有価証券等による資金運用は継続できた。

企業債は、低金利であること、また将来の施設更新時の資金需要に備え、次年度以降は起債を抑制するのではなく、適切に活用を図っていくこととした。

④ 民間活力の活用 [評価：b 概ね達成している]

民間への委託効果の検証を行ったが、現状以上の民間委託の拡大を図る余地はないものと判断し、令和2年度をもって事業を終了させることとした。

2) 広域化の推進

① 用水供給事業体の統合等の取組 [評価：a 達成している]

用水供給事業の統合については、統合協議会準備会議の幹事会、部会に出席し、検討・協議に参画するとともに、南房総地域市町村等調整会議について事務局として円滑な会議運営に努めた。

末端給水事業の統合については、令和2年8月に関係市町等で覚書を締結し、今後の統合協議・検討を進めていく取扱いについて合意が調った。

3) 人材育成と活力ある組織づくり

① 効果的な組織体制と適切な定員管理 [評価：c 達成していないが進展している]

職員採用試験を実施し、広報活動もしたが、職員を採用することはできなかった。

② 技術等の継承と人材育成 [評価：b 概ね達成している]

新型コロナウイルス感染症流行拡大により中止となった研修が多かったため、職員一人当たりの研修時間が11時間となり、目標である15時間を達成できなかった。

4) 構成市町等との連携・情報公開

① 構成市町等との連携 [評価：a 達成している]

5月に南房総地域水道連絡協議会、9月に夷隅・安房地区水道水質担当者連絡協議会を開催し、構成市町等と情報交換等を行った。

② 広報活動の充実 [評価：b 概ね達成している]

企業団ホームページを随時更新した。

施設見学は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、受入れは中止した。

5) 環境対策

① エネルギー使用の合理化 [評価：b 概ね達成している]

省エネ対策を実施し、電力消費量の目標を達成したが、再生可能エネルギー導入の検討が進んでいない。

② 資源の有効利用 [評価：a 達成している]

特定建設廃棄物はすべて再資源化し、建設廃棄物は再資源化が可能な廃棄物すべてを再資源化した。また、浄水発生土はすべてセメント原料として再資源化した。

○ 総合評価

評価	件数	割合
a : 達成している	15 件	50.0%
b : 概ね達成している	9 件	30.0%
c : 達成していないが進展している	2 件	6.7%
d : 進展していない	4 件	13.3%
計	30 件	100.0%